



2024年11月12日

各位

会社名 株式会社ダイドーリミテッド  
代表者名 代表取締役社長執行役員兼COO 成瀬 功一郎  
コード番号 3205 (東証スタンダード・名証プレミア)  
問合せ先 取締役上席執行役員 白子田 圭一  
(TEL: 03-3257-5022)

### 2025年3月期第2四半期(中間期)連結業績予想値と実績値との差異および 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2024年8月8日に公表いたしました2025年3月期第2四半期(中間期)の連結業績予想値と実績値との差異および2025年3月期通期連結業績予想の修正についてお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2025年3月期第2四半期(中間期)連結業績予想値と実績値との差異(2024年4月1日~2024年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円 14,400	百万円 △450	百万円 △400	百万円 △300	円 銭 △11.14
実績値(B)	13,718	△456	△483	△202	△7.49
増減額(B-A)	△682	△6	△83	98	—
増減率(%)	△4.7	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2024年3月期第2四半期)	13,981	△370	△224	△390	△12.93

#### 2. 2025年3月期通期連結業績予想の修正(2024年4月1日~2025年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 30,300	百万円 100	百万円 70	百万円 30	円 銭 1.11
今回修正予想(B)	28,740	△150	△300	1,050	38.87
増減額(B-A)	△1,560	△250	△370	1,020	37.76
増減率(%)	△5.1	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2024年3月期)	28,697	△442	△336	291	10.22

### 3. 差異の理由および修正の理由

2025年3月期中間連結会計期間においては、衣料事業の国内小売部門では企業業績の回復や雇用・所得環境の改善に伴う個人消費の伸長やインバウンド消費の拡大などにより売上高および利益が計画を上回る結果となりました。

一方で、イタリアの製造部門では取引先の在庫調整が長期化していることによって計画に比べて売上高が大きく減少しており、自社工場の稼働率向上に取り組むことで利益の確保を図りましたが、当中間連結会計期間においては効果が限定的でありました。

その他に、各報告セグメントに配分していない全社費用において、定時株主総会の開催に関連する費用が想定以上に発生いたしました。

これらの状況により、2025年3月期中間連結会計期間の実績は、前回発表予想比で売上高が減少いたしました。国内小売部門の利益率の改善などによって営業損失は前回発表予想と同水準となり、為替差損の増加などによって経常損失は増加、特別利益に固定資産売却益を計上したことなどによって親会社株主に帰属する当期純損失は減少いたしました。

2025年3月期中間連結会計期間の連結業績の営業損失は予想どおりの水準となりましたが、不安定な国際情勢など先行き不透明な状況が続いております。

下期におきましては、イタリア製造部門の停滞が引き続き継続することが想定され、また、中国経済の低迷の影響により消費者の購買意欲が著しく悪化していることによって中国小売部門の売上高が直近の想定を下回る見込みであります。国内小売部門においても10月以降も気温の高い日が続いていたため、秋冬衣料の売上高が直近予想比で減少となることを想定しております。

衣料事業ではオンラインストアと実店舗を融合したサービスの提供やスーツ等のパターンオーダーの受注拡大に取り組んでおり、不動産賃貸事業では資産効率の向上に取り組んでおりますが、下期の業績は前回発表予想を下回る見込みであります。また、当第2四半期に計上した特別利益と第3四半期に計上予定の固定資産売却益、中期経営計画に記載した保有資産の一部売却予定による固定資産売却益の計上により、繰延税金負債の取り崩しに伴う法人税等調整額を計上予定であるため、親会社株主に帰属する当期純利益も当初の予想から大きく修正することといたしました。

以上により、2025年3月期中間連結会計期間の連結業績を受けて下期の業績予想を修正した上で、通期の連結業績予想を修正いたします。

なお、損失の拡大している中国小売部門については「非戦略事業」と位置付け、抜本的な改革を早急に実施することで損失の縮減を図る予定です。通期の連結業績予想から「非戦略事業」の損失および当期に臨時的に発生した「株主総会特別対策費用」を除いた営業利益（＝正常収益：特殊要因による費用および損失がなかった場合の本来の営業利益）は99百万円となる見通しであります。

(注) 本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであります。実際の業績等は、今後の様々な要素により本資料の記述とは異なる結果となる可能性があります。

以上